

第21回 山口市中心市街地活性化協議会（報告）

1. 日 時 平成23年5月30日（月）19：00～20：00
2. 場 所 山口商工会議所4階 常議員会議室
3. 出席者 29名
4. 内 容

【報告事項】

山口市及び各商店街関係者から、下記項目について進捗状況の報告が行われた。

○ 山口市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について

平成22年度の商店街通行量は、53,483人となっており、昨年から回復している。年間を通して実施されるイベント、商店街の魅力を発信するHPの取り組み、道場門前商店街にオープンした特産品ショップ、薬膳カフェ、借上型住宅等の効果によるものと考えている。小売業年間消費販売額については、平成21年度の数値になるが、9,681百万円となっており、平成20年度から若干下がっている結果となっている。商店街を通じ1年間の実績に基づき推計しているため、他の指標と1年ずれている。アルビ跡地事業については、今回の調査結果には反映されていないことや昨年の経済状況を反映していることから目標数値に達成していない状況である。居住人口については、4,271人と前年から比較すると増加している。昨年、駅通りの借上型住宅が入居を開始したこと等によるものと考えている。マルシェ中市事業、梅田邸事業、特産品ショップ等のオープンにより新たな集客が見込まれる。今後も引き続き官民一体となって通行量、小売業販売額についても目標達成に努めていきたい。

○ 中市商店街に関係する事業の進捗状況

梅田邸は、マルシェ中市と山口井筒屋に挟まれた個人の住宅であるが、マルシェ中市と同時開発したらどうかと考え、商店街アーケードを通行されるかたはもちろん、マルシェ中市と井筒屋の間を回遊性のあるものとした。中国経済産局からも3月の終わりに事業採択を受けている。まだ具体的なものにはなっていないが、基本的には、軽食と商店街に買物に来られた方のグレードの高い休憩スペース（甘味処）等を計画している。来年の3月までには事業完了予定。当初は11月を予定していたが震災の影響で資材調達が難しくなっており、事業スケジュールが少しずれ込む予定。

○ マルシェ中市事業の進捗状況

名称を公募し、マルシェ中市に決定している。売上目標については、施設全体で年間7億5千万を予定している。1日当たり200万の売り上げ目標については、それに近い数字となっている。来店者は平均値で2,000人から2,100人となっている。東の核の集客装置として、いまのところ一定の役割を果たしていると考えている。また、2階の広場と1階の広場の利活用をどうするかということ。

○ 米屋町商店街に関する事業の進捗状況

来年1月の都市計画決定を目標に、5月中に地権者数を決めている。当初14区画であったが1区画抜けて、13区画の地権者の合意を得ている。全体の敷地スペースが8,000㎡である。着々と準備を進めている状況である。

○ 道場門前商店街に関する事業の進捗状況

昨年から3店舗続けて出店している。東北の店に関しては、震災で流通の影響もあるが、東北の方からも感謝の手紙をいただいた。北海道の店もお客様から喜ばれている。菓膳カフェは、韓国という部分で支持を得ている。韓国人留学生も手伝いをしており、韓国語講座も実施している。

【協議事項】

1. 平成22年度事業報告並びに収支決算について

事務局から平成22年度事業報告及び収支決算について別紙資料に基づき説明。続いて、監査報告が行われ、異議なく承認された。

2. タウンマネージャーの設置について

事務局から、タウンマネージャーの設置及び各タウンマネージャー候補者の経歴、役割等について、別紙資料に基づき説明が行われた。設置の可否について、諮ったところ西郷真理子氏、有田實氏、木村裕美氏、河崎妙子氏の4名をタウンマネージャーとして設置することについて、異議なく承認された。

以上